

Undergraduate Certificate プログラム
2006 年後期（秋学期）シラバス

(a) Introductory Module

EU 科目名 : European Political History / 開講大学での科目名 : 西洋政治史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	森本	後期(月曜日 1・2 限目)	I 306
<p>授業のテーマと目標 この授業の基本的な目標は、大きく分けて二つある。その一つは、現代のヨーロッパ諸国の政治について基本的な概観を与えることであり、もう一つは政治という現象を捉える上で比較という手法の持つ意味を考えてもらうことである。具体的には、比較政治のさまざまな分析枠組みを切り口としながら、現代のヨーロッパ諸国の政治を歴史的に検討する。</p> <p>授業内容の要旨と授業計画 以下の三つの点を中心に講義を行う。詳細については後日改めて掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較政治の分析枠組 ・ヨーロッパ各国の現代政治の構造 ・政治の新たな変容 <p>教科書・参考書 全般的な参考文献は以下の通り。 馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』東京大学出版会、2000年。 小川有美編著『EU 諸国』(国際情勢ベーシックシリーズ)自由国民社、1999年 小川有美・岩崎正洋編『アクセス地域研究Ⅱ : デモクラシーの構築』日本経済評論社、2004年 個別のテーマに応じた参考文献はその都度紹介する。</p> <p>成績評価方法 期末試験</p>			

EU 科目名 : Enlarged Europe and the World			
開講大学での科目名 : 総合コース485拡大するヨーロッパ圏と世界(EU の直面する試練と挑戦)			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学全学科目	代表 井口泰	後期(金曜日3限)	B-303
<p>講義目的 1999年1月に統一通貨ユーロを導入し、2004年5月に15ヶ国から25ヶ国へ拡大したEU(欧州連合)は、世界経済・政治において存在感を増している。しかし、2005年にEU憲法条約の批准につまづき、これまでEUの核としてリーダーシップを発揮してきたドイツ、フランスの経済停滞と政治の混乱が、EUの試練を一層困難なものにしている。本講では、地域経済統合の先駆的存在としてのEUが直面する試練と課題を、経済、経営及び政治的な側面を踏まえて解明し、周辺地域や東アジア(日本)との関係を重視しながら、今後の対応策と戦略について考察する。</p> <p>各回ごとの授業内容 9月29日 イントロダクション 10月6,13,20日 ドイツの構造改革と企業経営 10月27日、11月10日 ポーランドの経済・経営 11月17日 EUと周辺地域ロシアとCIS諸国 11月24日 EUと周辺地域地中海地域・イスラム圏 12月1日 EUと周辺地域サハラ以南アフリカ 12月8,15日 EUと日本企業の戦略 12月22日 欧州の人の移動とEUの移民・外国人政策 1月8日 まとめ EUと東アジア</p> <p>授業方法 パワーポイント・スライド、OHCなどを利用し、学内LANでも提供する。現地調査で撮影した映像や具体的な統計数値などを授業に活用する。</p> <p>教科書 レジュメ・スライドなどの資料を印刷して配布する。</p>			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

参考文献

テーマごとに参考文献リストを配布する。

成績評価方法・基準

テーマごとに課す宿題のほか出席状況を含む平常点(20点)と期末試験(80点)を合計して評価する。

学生による授業評価の方法

授業中実施

備考:各授業終了時及び学期末に、質問・感想や授業の評価を記入して提出してもらう。

キーワード

経済統合/通貨統合/EUの東方拡大/イスラム世界/企業統治(コーポレートガバナンス)/企業戦略/移行経済/
市場統合の社会的側面/市民・労働者の域内自由移動/欧州憲法条約案/環境問題

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

(b) History Module

EU 科目名 : History of Western Politics B / 開講大学での科目名 : 西洋政治史 B			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学法学部	澤田 庸三	後期(金曜日4限)	5別-3
<p>講義目的 第一次世界大戦後から20世紀中頃までの西欧政治の歴史について、「憶える歴史」から「考える歴史」へ、そして、国際政治論や外交史などの講義科目への「誘い」となるような講義を目標としたい。</p> <p>各回ごとの授業内容 (1)開講の辞(憶える歴史)から「考える歴史」へ (2)ロシア革命の衝撃(レーニンとロシア革命) (3)ムッソリーニとイタリアのファシズム体制 (4)戦間期について (5)世界恐慌と社会民主主義 (6)世界恐慌と保守派の改革 (7)ナチスの台頭について (8)恐慌と人民戦線 (9)ソビエトとスターリン (10)宥和政策について (11)第二次世界大戦と英仏 (12)戦後のヨーロッパ (13)まとめ</p> <p>授業方法 教科書の項目に沿って進めるが、多様な観点からの検討のため、レジュメを配布することがある。</p> <p>教科書 犬童一男『改訂版西欧政治史』(放送大学教育振興会、1993)と望田幸男編『西洋の歴史近現代編基本用語集』(ミネルヴァ書房、2003)を中心に講義を進めたい</p> <p>参考文献 主要な参考文献については以下の文献を掲載しておく。 他の文献については、講義中に適宜指示したい。 山口定『現代ヨーロッパ政治史上・下』(福村出版、1982、1983)、望田幸男他編『西洋の歴史近現代編増補版』(ミネルヴァ書房、1997)、平島健司・飯田芳弘『新訂ヨーロッパ政治史』(放送大学教育振興会、2005)。</p> <p>成績評価方法・基準 学期末試験で評価する。できればレポート等を課して、それも考慮したい。</p> <p>学生による授業評価の方法 授業中実施</p> <p>備考: 準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 世界史の教科書など概説的な文献を読んで、基礎的な事実関係を確認しておこう。必要なレジュメについては原則として講義中に配布するが、その後は事務室の所定の場所に一定期間配置しておく。</p> <p>キーワード 西洋政治史/西欧の政治/考える歴史へ/近代化とその多様性</p>			

EU 科目名 : Medieval-Earlymodern Economic History of Western			
開講大学での科目名 : 中・近世西洋政治史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学経済学部	奥西 孝至	後期(月曜日5限)	I 232
<p>目的と概要 現代経済の形成に至るヨーロッパにおける経済発展を市場経済化および市場経済化を軸に、18世紀までの時期について概観し、そ特質を明らかにする。</p>			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

講義計画と内容

経済学にとっての中近世ヨーロッパ

中世ヨーロッパの形成

中世ヨーロッパの農村

中世ヨーロッパの都市

中世末期ヨーロッパの経済

近世(近代初頭)のヨーロッパ経済 1 ヨーロッパの接合

近世(近代初頭)のヨーロッパ経済2 ヨーロッパの拡大と近代国家

17～18世紀のヨーロッパ経済 「経済危機」と国家

履修前後の関連科目

ヨーロッパ経済統合史(経済統合を対象とするより専門的な講義ではあるが、ある程度の内容は重複する)

履修上の注意

世界史の知識を前提にして、経済に関わる細やかな史実ではなく、その構造、機能を中心に講義するので、高校世界史レベルでよいので時代の流れ等を頭に入れた上で履修すること。

学生へのメッセージと前回の授業アンケートに基づく改善・工夫

他の講義に比べて一回あたりの情報量は多くなるため、集中力を保って講義に臨んで欲しい。

アンケートでは板書について標準より低い評価を受けているが、これには、書き写すための要点を板書するのではなく、要旨を配った上での過程の説明として付加的に注記を加えていく板書の書き方をとっていることが要因の一つとなっているので、ノートのとり方等についての説明を行う予定である。

成績評価方法

学期末の試験の成績による。

教科書・参考書

講義で配布する要旨により授業を進める。

参考書としては、岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版

EU 科目名 : Advanced Economic History of European Integration

開講大学での科目名 : 上級ヨーロッパ経済統合史

大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学経済学部	奥西 孝至	後期(木曜日5限)	I 230

目標と概要

現在進行している EU を軸としたヨーロッパにおける経済統合を、中世末期からの現代に至るより広義な経済統合の流れの中に位置づけその特質を明らかにする。

講義計画と内容

グローバル化の端緒としての近代ヨーロッパ世界システム

グローバル化と近代ヨーロッパ商業

地域の経済構造変化と価格体系

地域統合と経済制度、経済政策

地域分業化の進展と工業始動

工業化の進展とヨーロッパ経済統合

パックスブリタニカとヨーロッパ経済統合

世界大戦とヨーロッパ経済統合

ヨーロッパ経済統合と EU

履修前後の関連科目

中・近世西洋経済史(学部)(ヨーロッパの経済発展をより広く扱うがある程度内容は重複する)

履修上の注意

世界史の知識を前提にして、経済に関わる細やかな史実ではなく、その構造、機能を中心に講義するので、高校世界史レベルでよいので時代の流れ等を頭に入れた上で履修すること。

学生へのメッセージと前回の授業アンケートに基づく改善・工夫

他の講義に比べて一回あたりの情報量は多くなるため、集中力を保って講義に臨んで欲しい。

アンケートでは板書について標準より低い評価を受けているが、これには、書き写すための要点を板書するのではなく、要旨を配った上での過程の説明として付加的に注記を加えていく板書の書き方をとっていることが要因の一つとなっているので、ノートのとり方等についての説明を行う予定である。

成績評価方法

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

<p>学期末の試験の成績による</p> <p>教科書・参考書</p> <p>講義で配布する要旨により授業を進める。</p> <p>参考書としては、岡田泰男編著『西洋経済史』八千代出版</p>
--

EU 科目名: Western Legal History / 開講大学での科目名: 西洋法史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大法学部	瀧澤 栄治	後期(金曜日3限)	VI 501
<p>授業のテーマと目標</p> <p>ローマ法は中世末から近世初頭にかけてヨーロッパ諸国の法制として継受され、近代諸国の私法典、私法学の基礎となった。日本の民法典も、フランス、ドイツの私法を通じて間接にローマ法を継受したとすることができる。授業では、ローマ私法における制度、概念、思考方法について、債権法を中心に講義する。ローマ法に関する基本的な知識を習得してもらうことがまず第一の目標である。しかしさらに、近代私法との歴史的なつながり、比較の問題にも触れる予定である。</p> <p>授業内容の趣旨と授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ローマ法とはなにか(ローマ法史概説) 2. ローマ民事訴訟手続概説(法律訴訟・方式書訴訟) 3. 債務関係と訴権(いわゆるアクティオ的思考) 4. 訴権と方式書(方式書の種類と内容) 5. 債務関係の分類(契約、準契約、不法行為、準不法行為) 6. 要物契約(消費貸借、使用貸借、寄託、質) 7. 言語契約(問答契約) 8. 文書契約(金銭出納簿への支出の記入) 9. 諾成契約(売買、賃約、委任、組合) 10. 無名要物契約(先行給付を成立要件とする給付交換型の無名契約) 11. 無方式合意(市民法の枠外における合意の法的保護) 12. 不法行為(窃盗、不法損害、人格権侵害) 13. 付加的性質の訴権(家長・主人、船主・経営者の責任) <p>以上の講義において、その都度必要な場合に、帰責事由、危険負担、債務不履行、免除、更改、債権譲渡、保証といった問題にも触れる。</p> <p>教科書</p> <p>G・クリンゲンベルク著／瀧澤栄治訳『ローマ債権法講義』2001年、大学教育出版</p> <p>参考書</p> <p>広中俊雄『契約とその法的保護』(広中俊雄著作集1)1992年、創文社</p> <p>河上正二訳著『歴史の中の民法—ローマ法との対話』2001年、日本評論社</p> <p>履修上の注意</p> <p>授業は教科書を用いて行うので、入手しておくこと。なお、理解を助けるための補助教材を配布する予定である。</p> <p>成績評価方法</p> <p>期末試験</p>			

EU 科目名: European Legal History B / 開講大学での科目名: 西洋法史 B(コモン・ロー法学史)			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学法学部	深尾 裕造	後期(水曜日2限)	B-202
<p>講義目的</p> <p>西洋法史Bでは、西洋法史を理解する上でポイントとなるトピックを採りあげ、個別的に掘り下げて検討することによって、ヨーロッパ法史への理解を深めることとしている。今年度は、ローマ法の影響を受けながらも、大陸ヨーロッパ法のような包括的継受乃至ローマ法化といった現象とは異なり、国王裁判所の法慣行を中心に自生的な発展を遂げたコモン・ロー法学の発展の歴史を、訴訟構造の変化、法学教育との関連等も視野に入れつつ、法文献</p>			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

の変遷を軸に検討することとする。

各回ごとの授業内容

- 1) はじめに: 法書の時代を超えて
- 2) ヘンリ二世の法改革とグランヴィル: 令状体系の形成と法学
- 3) ブラクトンとイングランド法: ローマ法とイングランド法、抗弁システムの発展
- 4) エドワード一世の立法とその意義: 制定法令集とフランス語法文献
- 5) 初期コモン・ロー法文献の形成: 令状・訴答用例集、旧土地法論と法廷年報
- 6) リトルトン、フォーテスキューの時代: 法廷年報と中世末コモン・ロー法学の展開
- 7) 印刷術の導入とコモン・ロー法学: フィツハーバート法大要録と法学文献の革新
- 8) 人文主義とコモン・ロー法学: 法文献の体系化とラミズム
- 9) チューダー期新立法と立法解釈論: プラウドウン判例集とブラクトンの復活
- 10) 近代コモン・ロー法学への架橋: クック法学とその意義
- 11) 解体期イングランド法学の礎: ヘイルからブラックストーンへ
- 12) 一九世紀法学教育改革とコモンロー法学: 大陸法学の入から判例法学へ
- 13) まとめにかえて: EU統合とコモン・ロー法学

授業方法

教科書は使用せず、レジュメを配布する。 図像資料、原典資料等をプロジェクターで提示することによって視覚的に理解できるように試みる。

教科書

特に使用せず

参考文献

- 授業において適宜指示するが、総括的なものとして下記のものがある。
- 上山安敏編『近代ヨーロッパ法社会史』(ミネルヴァ書房、1987)。
 ブラクネット・伊藤正己監修『イギリス法制史(総説編下)』(東京大学出版会、1959)。
 J. ベイカー・小山貞夫訳『イングランド法制史概説』(創文社、1975)。
 D・シュガーマン法文化研究会編訳『イングランドの法と社会—法の歴史社会学—』(風行社、1993)。

成績評価方法・基準

定期試験を基本として評価を行う

学生による授業評価の方法

授業中実施

準備学習等についての具体的な指示および他科目との関連

高校世界史程度の知識、法学部一年次の法学一般に関する基礎知識にあわせて、西洋法史Aの修得を前提として授業を行う。 英米法、法思想史、実定法制度の歴史的基礎に関心のある人にも役立ちます。

キーワード

コモン・ロー/法学史/法文献史/法学教育史/令状登録集/訴答用例集/制定法令集/法廷年報

EU 科目 : European Legal History / 開講大学での科目名 : 西洋法制史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学法学部	三成 賢次	(通年)金曜日1限	2番
概要・目的 明治以降わが国は近代化の枠組みである近代法制を整備するにあたって、西欧とくにドイツから様々な法制度、法学説を継受してきた。わが国の現代法制は、ドイツ法史を歴史的源流としてもつ近代法原理に基礎づけられているともいえる。講義ではそのような歴史的経緯をふまえ、ドイツ法史を主たる考察対象にしつつ、近代の法学と法制、そして国制がどのような歴史的伝統のもとに、またいかなる歴史的条件のなかで形成されてきたかを概観する。			
授業計画 今年度は、以下の予定に従って授業する予定である。			
<ol style="list-style-type: none"> 1) はじめに一講義のテーマと課題 2) 封建社会 3) 中世都市 4) 中世大学の成立 5) 近世の国制—神聖ローマ帝国 6) 領邦体制—プロイセン国制 			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

- 7)ローマ法の継受
- 8)近世ドイツ法学
- 9)魔女裁判
- 10)プロイセン改革
- 11)プロイセン行政改革
- 12)サヴィニーと歴史法学
- 13)ドイツ同盟体制
- 14)三月前期におけるプロイセン国制
- 15)三月革命期ドイツにおける法と社会
- 16)プロイセンにおける三月革命と反動体制 - 1850年憲法体制
- 17)新時代におけるプロイセン国制
- 18)ドイツ第二帝制とプロイセン
- 19)ドイツ民法典の編纂
- 20)概念法学と自由法運動
- 21)ワイマル憲法体制
- 22)ナチズム法体制
- 23)ボン基本法体制の成立

教科書

講義の際に、レジュメならびに史料・図版等を適宜配布あるいは提示する。

参考文献

- 三成賢次他著『法制史入門』ナカニシヤ出版(1996年)
 林健太郎編『ドイツ史(新版)』(山川出版社、1977年)
 F. ハルトゥング／成瀬・坂井訳『ドイツ国制史』(岩波書店、1980年)
 ミッタイス＝リーベリッヒ／世良訳『ドイツ法制史概説・改訂版』(創文社、1976年)
 ミッタイス／世良・広中訳『ドイツ私法概説』(創文社、1961年)
 シュロツサー／大木訳『近世私法史要論』(有信堂、1993年)
 山田晟『ドイツ近代憲法史』(東大出版会、1963年)
 メンガー／石川他訳『ドイツ憲法思想史』(世界思想社、1988年)

成績評価の方法

授業時に指示する。

コメント

EU研究修了証プログラム(EUIJ関西)科目(歴史)

EU 科目 : European Economic History / 開講大学での科目名 : 西洋経済史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学経済学部	佐村 明知	後期(火曜日2限・水曜日3限)	1 番
授業目的 19世紀以降における欧米主要国の経済発展、ならびに国際経済の成長過程についての基礎的な理解を深める。			
履修要件 経済史を履修していることが望ましい			
授業内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀における主要国の経済発展 <ol style="list-style-type: none"> (1)イギリス経済の実物面と金融面 (2)フランス経済の実物面と金融面 (3)ドイツ経済の実物面と金融面 (4)アメリカ経済の実物面と金融面 2. 19世紀の国際経済の動き <ol style="list-style-type: none"> (1)人口移動、対外投資の成長 (2)外国貿易の成長、通商政策 (3)多角決済網、国際金本位制の展開 (4)工業化の波及、国際経済の趨勢と変動 3. 20世紀の国際経済の変容 			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

- (1) 再建金本位制と経済回復
(2) 世界大恐慌と金本位制の崩壊
(3) 両大戦間期の国際経済と貿易
4. 戦後の国際経済の動き

教科書

使用しない。

参考文献

D.S.ランデス『西ヨーロッパ工業史』(みすず書房)

A.G.ケンウッド『国際経済の成長』(文眞堂)

A.マディソン『20 世紀の世界経済』

成績評価

主として定期試験による。また、小テストを数回行う。

EU 科目名 : Europe in the 20th Century B / 開講大学での科目名 : 20 世紀のヨーロッパ B

大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学共通教育科目	竹中 亨	後期(水曜日2限)	イ23

授業の目的、ねらい

20 世紀のヨーロッパは、二度の世界大戦を経験しつつ、国際社会のなかで大きな役割を果たした。本講義では、イギリスとドイツをとりあげ、両国を対比させながら、第一次大戦から現在までのヨーロッパの歴史的展開を学ぶ。

授業の計画、内容と目標

教科書に沿いつつ、イギリスとドイツの歴史的展開を交互にとりあげ、基本知識を整理しながら、大きな流れを把握するように努める。各週のテーマは以下のとおりである。

- ① ドイツの強国化と第一次大戦
- ② イギリスと大戦
- ③ 戦間期のイギリス
- ④ ワイマル共和国
- ⑤ ナチズムの時代
- ⑥ 第二次大戦とドイツ
- ⑦ 大戦下のイギリスと戦後社会
- ⑧ 保守党政権とコンセンサス
- ⑨ 分断国家への道
- ⑩ 経済危機と政治不安
- ⑪ 二つのドイツ国家と統一
- ⑫ サッチャー主義

成績評価の方法

講義の内容に関わる小試験を原則として毎回行い、さらに学期末に試験を行う。これらの成績に基づいて(小試験 50%、学期末試験 50%)評価する。

教科書

川北稔編『イギリス史』(山川出版社、3500 円)

木村靖二編『ドイツの歴史』(有斐閣、1800 円)

参考図書

なし

e-mail: tortak@let.osaka-u.ac.jp

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

(c) Law and Politics Module

EU 科目名: European Law / 開講大学での科目名: ヨーロッパ法			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	ヨハネス・キメスカンプ	後期(水曜日4限)	VI 501
<p>授業のテーマと目標 ヨーロッパ法の基礎。</p> <p>授業内容の要旨と授業計画 EU 構成国の国内法に対するヨーロッパ法の影響につき、ドイツを例にとって議論する。EU が有するさまざまな手段(規則・指令など)のほか、重要性を日に日に増しつつあるヨーロッパ司法裁判所の判例も取り上げる。具体例としては、差別禁止指令とそれがドイツ法に与えた影響などを検討したい。</p> <p>教科書・参考書 Craig & de Burca, EU Law (Oxford University Press, 2002) その他、関連するウェブサイトのリストを講義時に配布する。</p> <p>履修上の注意 この講義は英語でおこなわれる。</p> <p>成績評価方法 期末試験による。</p> <p>学生へのメッセージ ヨーロッパ法についてある程度の理解のある学生に限らず、初心者も歓迎する。</p>			

EU 科目名: External Relations the European Union / 開講大学での科目名: 国際政治応用研究			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	増島 建	後期(木曜日5限)	VII 503
<p>授業のテーマと目標 「EU の対外関係の研究」。EU は、加盟国から成る「国際関係」の場から、それ自身国際関係における一つのアクターとしての地位を確立しつつあります。イギリス、ドイツなど加盟国の総和としてではなく、それ自体として EU を多面的にとらえることが今日重要になってきています。そこでこの応用研究では、EU に関する基本的なテキスト(英文)を読みながら、EU の対外政策決定の枠組み、各地域に対する政策、開発援助・貿易などセクター別にみた政策、についての理解を深めることをまず行いたいと思います。それをふまえて各参加者の関心に基づく EU 対外関係に関する自由研究を行ってみたいと考えています。</p> <p>教科書・参考書 初回に指示します。</p> <p>履修上の注意 テキストの配布、割り当てを初回に行うので、参加希望者は必ず出席してください。英語文献の割当てが2~3回あり、また最新の情勢について新聞・インターネット・インタビュー等によって自由研究を行うことが各参加者に求められます。評価は、これらの報告と、毎回の質問・発言に基づいて行います。EU インスティテュート関西(EUIJ 関西)を訪問する EU からのゲストにもゲストスピーカーとして適宜参加してもらうことを考えています。</p>			

EU 科目名: Current Topics II / 開講大学での科目名: 現代 EU 論 II			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	S.ジョラ	後期(金曜日5限)	VI 502
<p>Theme and object The course intends to provide a more extensive understanding of EU by focusing on the challenges faced by the Union, several case studies, and the member states dynamics in the communitarian context.</p> <p>Course Summary The course is divided in three main parts. :challenges and dilemmas ("deepening Vs widening", the "democratic deficit", the European common</p>			

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期 (秋学期) シラバス

identity, new security threats); EU member states dynamics (the core members, the Northern, Southern and Eastern dimensions of the EU); case studies (EU-WTO, EU-Un, EU-US, CFSP-crisis management).

Bibliography

-Necessary text materials will be provided before each class session.

General: Wallace W and Wallace H (eds) Policy Making in the EU.

Online:- "Europa" web site of the European Union <http://europa.eu.int>

-Source for articles on European Integration (European Research Papers Archive): <http://eiop.or.at/erpa>

-The Centre for European Policy Studies <http://www.ceps.be>

Points to remember

The course is meant to be highly interactive. Aiming to stimulate their oral discourse skills, the students are encouraged to give presentation to actively participate in the class debates.

Evaluation policy

40%-a research paper – each student will be required to prepare a short paper (7-10 pages) on a topic to be agreed upon with the instructor. 60%-class participation (continuous assessment)

EU 科目名: History of European Political Thought / 開講大学での科目名: 西洋政治思想

大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学法学部	竹中 浩	後期(水曜日2限・金曜日3限)	2番

概要・目的

イギリスを中心とした近代西洋の政治思想を概観することにより、現代の法や政治の基礎にある考え方についての理解を深める。前半でデモクラシーの政治思想の成立をあとづけたあと、後半では、リベラリズムにかかわる諸問題について検討する予定である。

受講要件

とくにない。講義を聴くための最低限のマナーさえ身につけていればよい。

授業計画

はじめに

第1部 デモクラシーの政治思想

- 1 政治思想と宗教
- 2 名誉革命体制の成立
- 3 革命と急進主義
- 4 大衆とエリート

第2部 リベラリズムの政治思想

- 1 ホブズとロックの政治思想
- 2 名誉革命体制の政治思想
- 3 リベラリズムと現代

教科書

佐々木毅・鷲見誠一・杉田敦『西政政治思想史』(北樹出版)

ただし講義の構成は教科書のとおりではない。教科書は講義を理解するための最低限の知識を提供するものである。

参考文献

- 福田勲一『政治学史』(東京大学出版会)
 浜林正夫『イギリス宗教史』(大月書店)
 村岡健次・川北稔『イギリス近代史』(ミネルヴァ書房)
 近藤和彦編『長い18世紀のイギリス—その政治社会』(山川出版社)
 友清理士『イギリス革命(上・下)』(研究社)
 イギリス思想叢書(研究社出版)

成績評価の方法

試験による。

コメント

講義で取り上げられる思想家のなかには、高校の世界史や倫理で学ぶ人も含まれているが、恐らく彼らについての説明は高校で聞いたものとはかなり異なっているであろう。新しい考え方に接しても戸惑わないだけの知的な柔軟さが必要である。

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

(d) Economics Module

EU 科目名 : Advanced Economic Integration / 開講大学での科目名 : 上級経済統合論			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学経済学部	後藤 純一	後期(火曜日3限)	I 324
<p>目標と概要 地域経済統合の経済的効果についての理論的・実証的分析をテーマとし、近年、世界各地で盛んになった地域経済統合 (EU, NAFTA, APEC, AFTA, MERCOSUR、など) が世界経済にどのような影響を及ぼすかを厳密な経済学の観点から分析する能力を身につけることを、目標とする。</p> <p>講義計画と内容 地域経済統合に関する論文(すべて英文)を多数読むことによって次の点について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域経済統合の歴史 * 地域経済統合の最近の動き * Customs Union の理論 * 地域経済統合についての最近の理論 * 地域経済統合の効果についての実証研究 <p>最初の数回の授業においては、学生に基礎知識を与えるため教員が講義を行うが、それ以降は、毎週地域経済統合に関する重要な論文(英文中心)を選び、受講する学生が輪番で報告し、これをもとにディスカッションすると言うかたちで授業をすすめる予定である。</p> <p>履修前後の関連科目 経済原論、国際経済学、経済数学などは不可欠</p> <p>履修上の注意 授業で取り扱う教材の中心が英文ジャーナル掲載論文であるため、履修のためにはミクロ経済学、マクロ経済学、(そして国際貿易論)を学習し終えていることが不可欠。また、英文の学術論文が容易に読めるだけの語学力を有していることも不可欠。</p> <p>学生へのメッセージと前回の授業アンケートに基づく改善・工夫 経済原論(ミクロ・マクロ)と国際経済学の知識、および英語の学術論文がほとんど辞書なしで読めるだけの語学力がない場合には単位取得は困難である。</p> <p>成績評価方法 輪番での論文報告(20%)、毎回の授業でのディスカッションへの貢献度(15%)、および最後のレポート(65%)によって総合的に評価する。</p> <p>教科書・参考書 学術誌に掲載された論文を読んでいくので特に教科書というものは定めない。強いて言えば、「Journal of Economic Integration」の最新号を読んでおくとよい。</p>			

EU 科目名 : Advanced Economics of European Integration			
開講大学での科目名 : 上級欧州統合論			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学経済学部	久保 広正	後期(火曜日3限)	I 320
<p>目標と概要 EU, NAFTA, MERCOSUR など、世界経済には多くの地域統合が存在する。本講義の目標は、EU 統合を対象に、地域統合をもたらした背景、更にはその影響について分析することにある。</p> <p>講義計画と内容 M. N. Javanovic による“The Economics of European Integration”の第3章“Monetary Integration”と第4章“Fiscal Policy and Budget”を輪読することによって、地域統合について論じる。</p> <p>履修前後の関連科目 本講義は EU インスティテュート関西の「EU コース」に含まれている。従って、同コースの他の講義もあわせて受講することが望ましい。</p> <p>履修上の注意 特になし。</p> <p>学生へのメッセージと前回の授業アンケートに基づく改善・工夫</p>			

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

EU 経済の重要性を認識していることが望ましい。従って、新聞・雑誌などにより、EU について最新の動きを読んで講義に参加するように。

成績評価方法

中間試験と期末試験を総合的に評価する。ウェイトは、中間試験 50%、期末試験 50%である。

教科書・参考書

久保広正(2003)『欧州統合論』 勁草書房

田中・久保編著(2004)『ヨーロッパ経済論』 ミネルヴァ書房

EU 科目名 : EU and Contemporary European Economics

開講大学での科目名 : 経済事情 A(2002)(EU と現代ヨーロッパ経済)

大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学経済学部	吉川 真裕	後期(水曜日3限・4限)	B-304

講義目的

主権国家が自国通貨を放棄して新たな共通通貨を採用するという通貨統合がヨーロッパでは現実のものとなった。この授業ではユーロ導入に至る経済通貨統合の取り組みを振り返りながらEU 経済全体を把握するとともに、主要国の経済状況も合わせて明らかにすることを目的とする。

■各回ごとの授業内容

1. 世界経済・国際通貨体制とEU
2. EU 統合の歴史的発展
- 3~4. 関税同盟と単一市場
- 5~6. EU の共通政策とEU 財政
- 7~8. 通貨協力から通貨統合へ
9. ヨーロッパ中央銀行制度
10. 最適通貨圏の理論
- 11~12. EU 経済と産業
- 13~14. EU 経済と構造的不均衡
- 15~16. イギリス経済
- 17~18. ドイツ経済
- 19~20. フランス経済
- 21~22. イタリア経済
23. オランダ経済
24. ベルギー経済
25. スウェーデン経済
26. スイス経済
27. スペイン経済
28. ポーランド経済

■授業方法

板書を多用する講義形式。ビデオ視聴も採り入れる。質問を歓迎し、授業中に答えていきたい。

■教科書

田中素香・長部重康・久保広正・岩田健治『現代ヨーロッパ経済(新版)』(有斐閣、2006)。

■参考文献

- 原輝史・工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』(有斐閣、1996)。
 小川有美編『EU 諸国』(自由国民社、1999)。
 田中素香『ユーロ』(岩波書店、2002)。
 田中友義・久保広正『ヨーロッパ経済論』(ミネルヴァ書房、2004)。

■成績評価方法・基準

原則として定期試験によって評価する。試験は基本的な事柄の理解を問う問題群(50 点)とテーマを定めて解答用紙裏面全体で答えてもらう論述問題(50 点)を予定している。

■学生による授業評価の方法

ネット利用(所定のフォーマット)

備考:

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

■キーワード

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期 (秋学期) シラバス

EU/EMU/EMS/スネーク/ECC/ヨーロッパ中央銀行/最適通貨圏/構造的不均衡/失業/共通農業政策/国際通貨/ヨーロッパ通貨危機

EU 科目名 : Enlargement of EU economy and Enterprise			
開講大学での科目名 : コース共通特論 A(106)「EU 経済の拡大と企業」			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学商学部	H.R.ブンゲシェ	後期(月曜日1限・木曜日3限)	商5
<p>講義目的</p> <p>EU(欧州連合)は 1993 年の市場統合から社会的統合、さらには政治的統合へと発展・進化を遂げています。また昨年 5 月には、東欧諸国を中心とした 10 ヶ国が新たに加わり、25 ヶ国へと拡大しました。こうした EU 経済の統合の深化と拡大は、EU の企業経営のあり方に大きな変革圧力を及ぼしております。本講義では、こうした EU 経済の拡大に伴う競争条件の変化と欧州域内企業の戦略的対応について分かり易く解説します。</p> <p>各回ごとの授業内容</p> <p>0. ガイダンス I</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヨーロッパ」とは何か？ 2. 欧州域内市場統一への道程(1) 3. 欧州域内市場統一への道程(2) 4. 欧州域内市場と企業(1) 5. 欧州域内市場と企業(2) 6. EU 拡大と企業: 旧東欧諸国の企業と戦略(1) 7. EU 拡大と企業: 旧東欧諸国の企業と戦略(2) 8. EU 拡大と企業: 従来の EU15 ヶ国の企業と戦略(1) 9. EU 拡大と企業: 従来の EU15 ヶ国の企業と戦略(2) 10. EU 拡大と人事制度の変化 11. EU 拡大と労使関係の変化 12. まとめ <p>II 1. ヨーロッパ自動車産業の発展と構造(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ヨーロッパ自動車産業の発展と構造(2) 3. フォルクスワーゲン・グループの欧州戦略: 生産システム 4. フォルクスワーゲン・グループの欧州戦略: 人事・賃金制度 5. EU 拡大と労働組合の新たな挑戦: VW エンジン工場をケースとして 6. 伝統的な自動車メーカーの回復: シュコダ自動車をケースとして 7. シュコダ自動車とグローバル・メーカーへの躍進 8. 東欧諸国における部品サプライヤー・システムの構造転換 9. EU の拡大とドイツ系部品サプライヤーの新たな戦略: ドイツ部品会社をケースとして 10. EU 諸国における日本自動車メーカーの展開 11. EU を超えて: メガ・コンペティションとヨーロッパの自動車産業。 まとめ <p>授業方法</p> <p>Power Point プレゼンテーションを中心とするが、必要なポイントについてはプリントを配布する。また、双方向の授業とするため、受講生へ質問をしたり、逆に受講生からの質問を受ける。</p> <p>教科書</p> <p>後日(授業中 等)指示する。</p> <p>参考文献</p> <p>藤井良広『EU の知識』(日本経済新聞社、2005)。 島野卓爾・岡村堯・田中俊郎『EU 入門。誕生から、政治、法律、経済まで』(有斐閣、2000)。 前間孝則『トヨタ vs. ベンツ vs. 本田。世界自動車戦争の構図』(講談社 + a 文庫、2002)。</p> <p>成績評価方法・基準</p> <p>平常点(出席率や授業中での発表など)と学期末の小論文を加味して、成績評価する。</p> <p>学生による授業評価の方法</p> <p>ネット利用(所定のフォーマット)</p> <p>備考:</p> <p>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</p>			

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

キーワード

EU 経済/EU 拡大と深化/企業戦略/EU 自動車産業。

EU 科目名 : International Trade / 開講大学での科目名 : 国際金融論「世界の中の日本を考える」

大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学総合政策学部	久保田 哲夫	後期(水曜日1限)	II-102

講義目的

現在の国際貿易にはさまざまな問題が生じているが、そのような問題の多くは、国際貿易を裏から支える国際通貨制度の持つ欠陥に由来する。本講義においては、国際通貨制度を、理論、政策、歴史の側面から分析することによって、このような問題がなぜ生じるか明らかにすると同時に、解決策を模索する。

各回ごとの授業内容

1. 貿易の利益の源泉

「ねらい」貿易はなぜ行われるか、貨幣が国際貿易にどのような問題を生じさせるか検討する。

「内容・キーワード」相対価格の相違と比較優位。なぜ各国間で相対価格に差が生じるか。ヘクシャー・オリーンの定理。世界レベルでの資源の有効利用。為替レートと国際収支の不均衡の発生。

2. 外国為替の仕組み

「ねらい」外国為替市場とは何か、そこで何が行われているか明らかにする。

「内容」外国為替による決済がどのようになされているか。外国為替市場での銀行の役割。外国為替取引はどのような意図を持ってなされているか。外国為替市場での新しい技術。

「キーワード」為替手形、為替ポジション、カバー、裁定、投機、先物為替、オプション

3. 国際収支の構造

「ねらい」1国の国際取引を集約した国際収支表から何をどう読みとるかを示す。

「内容・キーワード」国民経済計算体系。国際収支表とは何か。国際収支表の作成マニュアル。国際収支表の読み方。国際収支の不均衡とは何か。日本の国際収支。

4. 経常収支と国内総生産

「ねらい」経常収支が国内総生産にどのような影響を与えるか理論的に検討する。

「内容・キーワード」1国の豊かさを測る指標としての国内総生産。国民所得の三面等価。国民所得と景気。均衡国民所得の決定。失業問題と国際貿易。外国貿易乗数の意味。

5. 為替レートと経常収支

「ねらい」為替レートが経常収支に与える影響を考察し、この問題に関する現在の論争を整理する。

「内容・キーワード」為替レートは企業の競争力にどのような影響を与えるか。為替レートと交易条件の関係。弾力性アプローチ。経常収支のマクロ経済学的視点。アブソープション・アプローチ。

6. 金本位制とは何か「ねらい」金本位制の歴史を追いながら、その問題点を理論的に分析する。「内容・キーワード」貨幣の発生。本位制度の確立。国際金本位制の成立。金本位制の自動調整作用。物価＝正貨流出入機構。

7. 中央銀行と金融政策

「ねらい」金融機関の発展が金本位制にどのような問題を生じさせたか明らかにする。

「内容」商品としては価値を持たない名目貨幣が流通することによって、貨幣の過剰発行に関する問題が生じた。この問題に関する歴史上のいくつかの政策論争を取り上げ、その論争点を整理する。

「キーワード」信用創造、地金論争、通貨論争、最後の貸し手機能、ゲームのルール、管理通貨制

8. IMFの創設「ねらい」第2次世界大戦後の国際通貨体制はどのようなものであったか明らかにする。

「内容・キーワード」ブレトンウッズ会議。ケインズ案とホワイト案。IMFの発足。

9. 金ドル問題と国際通貨危機

「ねらい」ブレトンウッズ体制はなぜ崩壊したか歴史と理論の両面から考察する。

「内容・キーワード」ドル不足からドル不安へ。ゴールド・ラッシュ。金プールの設立。流動性ジレンマ論。さまざまな国際通貨制度改革案。SDR。

10. ブレトンウッズ体制の崩壊

「ねらい」ブレトンウッズ体制の崩壊への経緯とその後の動きを明らかにする。

「内容・キーワード」金プールの崩壊と金の二重価格制。ニクソン・ショックとスミソニアン合意。オイル・ショックと変動相場制への移行。

11. 変動相場制と日米経済摩擦

「ねらい」国際マクロ経済学の理論体系を概観し、日米経済摩擦の分析に応用する。

「内容・キーワード」日米経済摩擦の歴史的経緯。アメリカの経済政策と国際収支の不均衡。国際マクロ経済学の

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

視点から。マンデル＝フレミング・モデル。アセット・アプローチ。

12. 最近の話題から

「ねらい」国際金融面で最近話題になっているテーマについて講義する。

「内容」現時点では EU の通貨統合を取り上げる予定。

授業方法

基本的には講義形式であるが、時々データの分析等の作業を課すことがある。

教科書

教科書は特に定めず、参考図書、参考文献を授業において適宜指示する。

参考文献

授業において適宜指示する。

成績評価方法・基準

学期末の筆記試験の成績を中心に、出席点と授業中に行う小テストの点を加味する。なお、定期試験を受験していない者は評価の対象としない。

学生による授業評価の方法

ネット利用(所定のフォーマット)

ネット利用(その他)

備考:

準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

経済学を履修済であること。マクロ経済学を履修済であることが望ましい。

キーワード

国際金融論/国際貿易/国際通貨制度/外国為替/為替レート/国際収支/国際金本位制/銀行/ブレトン・ウッズ体制/IMF/変動相場制/通貨統合

EU 科目名 Special Lectures in Economics (Economics of Global Warming 06)

開講大学での科目名: 経済学特論(地球温暖化の経済学 06)

大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学経済学研究科	西條 辰義	後期(水曜日4限)	社 215

概要・目的

2004年にロシアが京都議定書を批准し、2005年2月には議定書が発効した。本講義の目的は、締約国会議等の動向を注意深く観察しつつ、経済学の視点から京都議定書を評価し、国内制度設計を試み、さらには、ポスト京都の制度はどうあるべきかを探ることを目的とする。とりわけ、排出権取引の制度設計に注目する。

受講要件

とくになし。

授業計画

数多くのゲストレクチャーを予定している。さらには、京都メカニズムに関する文献を受講者が輪読するというゼミ形式もとる。アカデミックな論文のみならず各国の交渉担当者による文献なども読む予定である。

教科書

とくになし。講義情報は、10月1日までに西條のホームページ

(<http://www.iser.osaka-u.ac.jp/~saijo>)における講義のページにて公開する予定。

参考文献

とくになし。

成績評価の方法

受講者には報告をお願いする。その報告の質と年度末の簡単なレポート(10ページ前後)で成績を評価する。

コメント

地球規模の公共財供給の問題をどのように経済学的に解決するのがこの講義の課題である。公共経済学のみならず、メカニズム・デザインの理論、ゲームの理論、計量経済学的手法、ファイナンスの理論、オークションの理論、被験者を用いる実験手法など、さまざまな角度からアプローチする予定。なお、昨年度の「地球温暖化の経済学」の単位取得者も今年の単位を取得できる。

EU 研究修了証プログラム(EUIJ 関西)科目(経済)

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

(e) Science, Technology, and Society Module

EU 科目名 : Science and Intellectual Property Protection / 開講大学での科目名 : 知的財産と法			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	井上 由里子	後期(水曜日1限)	I 102
<p>授業のテーマと目標 知的財産法とは、情報の財産的価値を保護することを主たる目的とする法分野である。本講義ではその全領域の基礎知識と思考枠組みの修得を目指す。</p> <p>授業内容の要旨と授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知的財産法総論 2. 著作権法 3. " 4. " 5. 不正競争防止 6. " 7. 商標法 8. 特許法 9. " 10. " 11. その他の個別法(意匠法・実用新案法・種苗法・半導体チップ法等) 12. 知的財産法の直面する現代的課題 <p>参考書 授業中に配布するレジュメを用いて授業を行うほか、参考図書については、適宜授業で指示する。</p> <p>履修上の注意 少なくとも特許法、著作権法、不正競争防止法(抄録でかまわない)が収録されている最新の六法を持参すること。</p> <p>成績評価方法 期末試験</p>			

EU 科目名 : European Architecture / 開講大学での科目名 : 西洋建築史			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学工学部	足立 祐司	後期(月曜日1限)	LR201
<p>授業目的 建築という概念を創り上げてきた西洋建築の歴史を理解することを目的とする。それぞれの時代の造形上の特徴、理論から思想的、宗教的意味、さらにそれぞれの様式を成立させた都市のおよび社会的背景などの理解を通じ、建築とは何かを考察する能力を養う。</p> <p>到達目標 それぞれの時代を代表する様式についての形式的な理解ではなく、建築という領域を形づくる様々な要因を理解し、建築を総合的に捉えることができる歴史的な視野を涵養する。</p> <p>授業内容 古代ギリシア・ローマから中世のビザンチン、ロマネスク、ゴシックを経て近世ルネサンス、バロクに至る様式の変遷を時代順に取り上げながら、それぞれの様式の理解とともに現代的な意義についても考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築の源流とエジプト建築 2. ギリシア建築と古典理念の形成 3. ローマ建築と古典理念の展開 4. キリスト教と教会建設の形成 5. 中世ヨーロッパの形成とビザンチン建築 6. ロマネスク建築と地域の多様性 7. ゴシック建築の成立と展開:技術と形式 			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

8. ルネサンスの文化と初期ルネサンス建築
9. ルネサンスの建築理念
10. 古典の変容とマニエリスム
11. バロック建築の造形理念
12. 絶対的主義王政下のヨーロッパ建築
13. 新古典主義の造形理念

授業の進め方

講述だけでなく、必要に応じて OHP、スライドを用い、概念的な理論だけでなく視覚的な理解も重視する。

成績評価方法

学期末の試験と何度かのレポートを参考にして評価する。特に思考能力の有無を評価する。

履修上の注意

高校、大学の2年までの社会科学、人文科学の知識だけでも理解できるように努めているので、一回一回の授業に集中し、その場で理解するように努力してほしい。また、その都度参考図書を紹介しているので、できるだけ自分で本を読む習慣をつけ、自分の考えを形成できるようにしてほしい。

教科書・参考文献など

日本建築学会編『西洋建築史図集』

オフィスアワー、学生へのメッセージ

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

答えが一義的に定まるといったこれまでのような受動的な姿勢ではなく、むしろ思考の前提となっているもの、思考の枠組みがどのように形成されていくのかを自分自身で考えることを大事にしてほしい。

EU 科目名 : Science and Technology in Europe

開講大学での科目名 : 政策課題研究 A(ヨーロッパにおける科学技術)

大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学総合政策学部	中野 幸紀	後期(金曜日2限)	II-204

講義目的

21 世紀の現在もなおヨーロッパは科学技術研究開発拠点でありつづけている。科学技術を支える合理的思考と客観的手続き、客観的データを重視する態度などは、政策立案の基礎として現在もなお最も重要であり続けている。ヨーロッパの科学技術を支えている市民社会の姿にも触れておくこととしたい。

各回ごとの授業内容

1. ヨーロッパの概要
2. EU の成立過程・ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)・冷戦下の CERN の設立・ローマ条約の成立
3. ヨーロッパにおける科学技術の成立(ギリシャ・ローマ～中世)
4. ヨーロッパにおける科学技術の成立(アンジェニエールたち(15-16 世紀))
5. 近代科学の誕生(17 世紀)
6. EU 研究開発政策の成立(JRC から COST 成立(1970 年代)まで)
7. EU 単一市場統合政策と技術標準化政策(new approach)
8. EU 研究開発政策の成立(COST から EEC 研究開発政策成立まで)
9. 1980 年代 EU 研究開発プロジェクト(Colonna Memo から ESPRIT 誕生まで)
10. BRITE(産業技術基盤強化と中小企業技術移転政策)
11. EU 研究開発フレームワークプログラム(FP)の創設
12. EUREKA の発足
13. EU 産業競争力強化プログラム(リスボン戦略)
14. EU 研究開発政策の現状と展望(ポストリスボン戦略)

授業方法

授業は講義形式で進める。授業時間中に Q&A 形式の予習・復習作業の時間を設ける。EU での現在進行形の議論を紹介するため、適宜、ゲストスピーカーを招くことがある。

参考文献

- F.ドルーシュ、木村尚三郎監修『ヨーロッパの歴史(第2版)』(東京書籍、1998)。
 城阪俊吉『エレクトロニクスを中心とした年代別 科学技術史』(日刊工業新聞社第5版、2001)。
 フランス外務省『現代のフランス』(原書房、2005)。
 Luca Guzzetti, <i>A Brief History of European Union Research Policy</i> (EU,1995)。

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

<p>関谷一彦・細身和志・山上浩編著『はじめて学ぶフランス』（関西学大学出版会、2004）。</p> <p>成績評価方法・基準 授業出席、授業中の Q&A 参加状況及び期末レポートによって総合的に評価する。</p> <p>学生による授業評価の方法 授業中実施 備考：</p> <p>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 EUIJ 関西履修科目である。欧州統合に関する基本的な学習をしておくことが望ましい。</p> <p>キーワード ヨーロッパ/EU/科学技術/産業技術/技術革新/市民社会/研究開発/宇宙航空/原子力/海洋/知的財産権/標準化</p>
--

EU 科目名 : European Civil Society / 開講大学での科目名 : 政策課題研究 B(ヨーロッパの市民社会)			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学総合政策学部	O.K.ライ	後期(水曜日1限)	II-204
<p>講義目的 This European Studies Course is not just taught by the professor(s) and has to be actively involved by students: students should check with all readings available in Library and M-Drive of SPS-KGU, in addition to your frequent check with webpages, and be ready to collect information regarding European Society and the developmental issues.</p> <p>各回ごとの授業内容 Issues to be Examined, Explored and Discussed: 1. Europe and European Culture and Society: History and Concepts 2. European Culture, Society and Civil Societies in History & Comparison 3. Case Studies on Nations and Societies 4. Community, Race, People and Refugees 5. Europeanization Process: EU and EU Enlargement 6. Regions, Nations and Citizenship 7. Race, Culture and Ethnicity Issues 8. Questions on Future of European Society(ies).</p> <p>授業方法 教科書 参考文献 成績評価方法・基準 No examination but 2 written submissions will be used for assessment: 1. European Civil Society: Culture & Ethnic- specific Case-Study 2. Project Report (questions will be posted during the course).</p> <p>学生による授業評価の方法 準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連 Reading Weeks will be arranged and Students have to self-study when No Class. Readings and References List will be available during the Course.</p>			

EU 科目名 : European Urban Design / 開講大学での科目名 : 都市景観論			
大学・学部	担当教員	時限	教室
関西学院大学総合政策学部	加藤 晃規	後期(火曜日3限目)	II-201
<p>講義目的 都市空間は建築物、看板、道路、公園、河川、土木構造物、そして人などの多様な要素で構成されている。これらを相互に関連し合うものとして捉え、そこに生まれる公共的空間の見え方や把握のされ方、つまり景観の現れ方について理解を深め、都市をデザインする主体的な立場で、魅力と個性のある景観の整備方策について学ぶ。</p> <p>各回ごとの授業内容</p>			

Undergraduate Certificate プログラム 2006 年後期（秋学期）シラバス

<p>(1)都市景観デザインの目的と役割(2回)</p> <p>1-1. 風土、風景、景観の概念について</p> <p>1-2. 知覚環境の計画、都市のイメージの重要性</p> <p>(2)都市デザインの系譜(3回)</p> <p>2-1. 都市デザインの系譜と事例</p> <p>2-2. 都市美の創造、都市景観整備の歴史</p> <p>2-3. 関係のデザイン手法、景観整備の様々な手法</p> <p>(3)公共的空間の景観デザイン事例(6回)</p> <p>3-1. 街路景観のデザイン事例</p> <p>3-2. 広場景観のデザイン事例</p> <p>3-3. 緑景観のデザイン事例</p> <p>3-4. 水辺景観のデザイン事例</p> <p>3-5. 歴史的街並み(伝統的建築物群保存地区)のデザイン事例</p> <p>3-6. 都市景観から地域景観へ(4)景観法の仕組み(2回)</p> <p>4-1. 景観条例と景観まちづくり事例</p> <p>4-2. 景観法の狙い</p> <p>授業方法</p> <p>スライドを使った講義形式を中心に進めるが、適切な事例やシンポジウムがあればその調査や参加レポートを通じて学ぶ。また、ゲストスピーカーを呼ぶこともある。</p> <p>教科書</p> <p>鳴海邦碩他『都市デザインの手法』(学芸出版社、1998)。</p> <p>参考文献</p> <p>加藤晃規『日本の広場のある街ーミズ・ミドリ・ツチー』(プロセスアーキテクチャー、1993)。加藤晃規『南欧の広場』(プロセスアーキテクチャー、1990)。参考資料:加藤晃規『まちづくりと景観ー講演記録集』(和歌山県土木部都市計画課、1993)。</p> <p>成績評価方法・基準</p> <p>定期試験、平常レポート、出席点により総合的に評価を行う。</p> <p>学生による授業評価の方法</p> <p>ネット利用(所定のフォーマット)</p> <p>備考:後半の講義の中で授業に関する調査を行う。</p> <p>準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連</p> <p>空間デザイン論、都市計画論、に続く内容である。</p> <p>キーワード</p> <p>風景/知覚環境/都市景観/自然景観/景観デザイン/公共的空間/都市のイメージ/都市美/関係のデザイン/街路/広場/緑/水辺/歴史的街並み/景観法/景観条例/まちづくり</p>
--

EU 科目名:Urban Civilization in European B / 開講大学での科目名:ヨーロッパの都市文明 B			
大学・学部	担当教員	時限	教室
大阪大学共通教育科目	栗原 麻子	後期(水曜日3限)	イ11
<p>授業の目的、ねらい</p> <p>都市の市民が、下層民や都市周辺の住民たちとともに織りなしていた社会的な絆のありかたについて考察する。それぞれの時代にヨーロッパの文化交流の結節点となった都市をとりあげ、各2時間ほどの解説を加える。それにより、都市のもっていた時代的特質を、都市空間の具体性のもとにとらえることができるだろう。</p> <p>授業の計画、内容と目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 都市のソシアビリテ 3 アテナイ 4 ローマ 5 コンスタンチノーブル 6 パリ・ベルリン・ロンドン 7 おわりに <p>成績評価の方法</p> <p>学期末の 2000 字程度のレポートと、数回の小レポートで評価する</p>			

Undergraduate Certificate プログラム
2006 年後期（秋学期）シラバス

教科書

使用せず

参考図書

授業の回で紹介する

Undergraduate Certificate プログラム

2006 年後期（秋学期）シラバス

(f) Japanese-EU Relations Module

EU 科目名 : Japan-EU Relations / 開講大学での科目名 : 日本・EU関係論			
大学・学部	担当教員	時限	教室
神戸大学法学部	増島 建 濱本 正太郎 S.ジョラ	後期(土曜日1・2限) (毎月2回)	大学院1号館 (関西学院大学)
<p>講義概要</p> <p>「日本・EU 関係論」は、EUIJ 関西の枠組みにおいて神戸大学法学部により開講される講義の一つであり、ルーマニア欧州統合省でルーマニアの EU 加盟交渉を担当された Jora 助教授および欧州委員会駐日代表部・EU 構成国大使館／領事館職員、さらには対 EU 交渉の第一線にいる外交官などにより提供されます。したがって、講義の大半は英語で行われます。</p> <p>この講義では、講義を聴くだけでなく、討論のために多くの時間が割かれます。日本で活躍されている実務家の方々と英語で討論する貴重な機会ですので、ぜひ活用してください。</p> <p>詳細な講義内容は、9月末までに EUIJ 関西 HP (http://euij-kansai.jp)に掲載します。</p> <p>日程</p> <p>10月14日(土) 1・2限(8:50-10:20, 10:40-12:10)</p> <p>10月28日(土) 1・2限</p> <p>11月18日(土) 1・2限</p> <p>11月25日(土) EUIJ 関西シンポジウム「コーポレートガバナンスの日欧比較」 (会場 関西学院大学)</p> <p>12月9日(土) EUIJ 関西ワークショップ「EU 加盟への道筋：ポーランドとルーマニアの比較」 (会場 神戸大学)</p> <p>12月16日(土) 1・2限</p> <p>1月13日(土) 1・2限</p> <p>教室</p> <p>11月25日と12月9日を除き、関西学院大学上ヶ原キャンパス大学院1号館210教室</p> <p>本講義と「アジア・EU 関係論」(前期開講)は EUIJ 関西に参加する3大学の施設で開講されており、昨年度後期「日本・EU 関係論」は神戸大学六甲台キャンパス、今年度前期「アジア・EU 関係論」は大阪大学中之島センターでそれぞれ開講しました。</p> <p>成績評価</p> <p>出席・討論への参加・レポートによります。いわゆる「期末試験」は行いません。詳細については、初回講義において説明します。3回以上欠席する場合、いかなる事情があっても不可とします。</p> <p>問い合わせ</p> <p>この講義についての質問は、EUIJ 関西事務局(euij@kobe-u.ac.jp)にお願いします。</p>			